

2020年12月23日(水)

令和2年度 全国科学館連携協議会 中四国ブロック会議 報告書

徳島県立あすたむらんど子ども科学館
展示グループ 安藤 徹

日時	2020年12月10日(木) 12:50~16:30
会場	オンライン開催(テレビ会議アプリ「Zoom」を使用)
参加者	連携協事務局 1名・招待講演講師 1名・加盟館 15名(6館)(合計 17名)
目的	全国科学館連携協議会規約に基づき、その目的に沿った事業の円滑な運営を図ると共に、本会議加盟館相互の交流を深め、地域の特性を生かした事業に取り組むことにより、中四国の科学普及向上に寄与することを目的とする。
内容	<p>12月10日(木)</p> <p>○開会 12:50~ 幹事館挨拶 【徳島県立あすたむらんど子ども科学館 館長 南栄治】 (以下、敬称略)</p> <p>○議事 13:00~ 報告 各館情報交換(入館者数の状況、特別展開催状況など) 各館による入館者数の状況、特別展開催結果などの報告及び質疑応答を行った。各館とも入館者は昨年度とくらべ2~4割程度に大きく減少、特別展についてはGW期間中止(または延期)した館が多く、夏については開催した館が多いが利用者は前年に比べ大きく減少している。コロナ禍を受け体験型の展示を中止し鑑賞型の展示を企画する館が増えた。防府市青少年科学館では錯視に関する企画展を実施した。岡山の作家の作品が中心のため中四国ブロックの館での巡回展なども検討したい。</p> <p>協議① コロナ禍における各館の運営状況について 各館ともに全国一斉の緊急事態宣言に伴い臨時休館となった。再開後も、体験型を伴う展示物や密が避けにくい展示物については休止、プラネタリウム等の座席数削減等の対応を行っている。入館時についても、手指の消毒や検温・利用者シートの記入など対応している。科学教室やワークショップについては、定員数の削減や整理券配布など行い利用者数を制限している。また、どの館においても臨時休館中にSNSや動画配信を新たに始めており、すでにアカウントがある館は発信を強化するなどしている。</p> <p>(入館や展示物の対応についての各館の状況 一部抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none">・声を出さず展示物の利用は中止。本来声を出さず展示物でないものもあるが、本来の使い方ではないが、子どもたちが展示物に向かって声を発する利用をしているものについても休止している。(出雲科学館)・教育委員会の意向に応じて運営。例外として臨時休館時においても、学校の理科学習のみ対応・実施していた。(出雲科学館)・団体利用時1団体に制限。一般のお客様も待ってもらい。待ってもらい間に動画を見ながらの体験・工作を用意。(防府市青少年科学館)・手で触れない展示物(足踏み発電装置)の導入。(川口ダム自然エネルギーミュージアム)・展示室の利用制限(人数・時間)の実施。団体利用は1団体40名までの利用とし、人数が多い団体は複数組に分かれての利用か出前授業での対応している。(川口ダム自然エネルギーミュージアム)

<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県の基準（徳島アラート）に合わせどう対応するのかあらかじめガイドラインを制定（川口ダム自然エネルギーミュージアム） ・消毒の手間を省くためアンケート記入用のペンを来館プレゼントとした（川口ダム自然エネルギーミュージアム） ・春開催予定だった企画展の期間を夏～冬にかけて長期開催とし、利用の分散を狙った。また、ビンゴカードを利用した穴あけ式のクイズラリーを実施。会期中一部の展示物やクイズラリーの内容を変更してリピーター対策を行った。（防府市青少年科学館） ・入館は無料のため、500名で入館制限を行っている。プラネタリウムについては利用料収入の兼ね合いのため定員を増やしたくもあるが、定員の約半数の120で運用中（広島市こども文化科学館） ・入り口に人はつけておらず、常時検温は行っていない。人を集めるイベントやベビールームの使用時は受付にて検温や連絡先の記入を行っている。（鳥取市こども科学館） ・園内の屋内施設入館時にマスク消毒検温必須としている。プラネタリウム等定員があるものについては定員数を削減。サイエンスショースペースが狭く密になるため間隔の取りやすい展示ロビーに場所を変更して実施している（徳島県立あすたむらんど） ・これまで申込制イベントは館内のみで受付していたが、QRコードやWEBフォームでの受付に変更した。年間講座では、板書・実演での講義を行っていたが、パワーポイント等によるプロジェクタとPC利用に変わった。（鳥取市こども科学館） <p>(SNS・動画に関する各館の状況を一部抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館独自のアカウントはないが、市の公式アカウントにてYouTube動画を配信。外出自粛期間中につき家でできる内容に限定（出雲科学館） ・科学教室を行っていたが、コロナを懸念して欠席する方も多く、家でもできる実験動画を中心に作成した（徳島県立あすたむらんど） ・作成した動画を利用制限による入館の待ち時間に利用している（防府市青少年科学館） ・これまであまり行っていなかったが、広島市主導で市内の博物館等と連携し「おうちでミュージアム」として情報発信している（広島市こども文化科学館） ・公式YouTubeを開始した。科学館のみではなく、公園施設全体の情報を発信している。ユーチューバーのような取り組みも多く挑戦している。閲覧数やチャンネル登録者数の伸び悩みが課題（徳島県立あすたむらんどい） ・臨時休館を機会にSNSやYouTubeを開始した（鳥取市こども科学館） <p>協議② 各館が取り組む地域連携について</p> <p>科学の祭典をはじめ、各館ごとに近隣施設や地域の学校・企業と連携した事業を実施している。しかし、今年度については感染症の状況により従来の方式での開催は取りやめる館も多くあった。それに伴いZoom等を利用したオンラインでの取り組みなども進められている。また、アクティブシニアの方々が多く活躍されているボランティアについても意見が交わされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の水族館と連携した取り組みを行っている。県東部と西部に離れて位置しているため、お互いの地域へのPRにつながっている。（出雲科学館） ・科学クラブに相当する「子ども学園」では現役の研究者を招き小5～中3向けに講座を実施。例年県外からも講師を招いているが、今年度は島根県内に限定している。（出雲科学館） ・周辺施設を周遊するカードラリーを実施。各施設で様々な特典があり、当館ではダムの見学会への参加を特典としている（川口ダム自然エネルギーミュージアム）
-----------	---

<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一度に40名までしか対応できないため、定員を超える場合は、グループ分けし、近隣施設と交互に見学をおこなう（川口ダム自然エネルギーミュージアム） ・防府市文化振興財団が指定管理を行う施設でのスタンプラリーを実施。錯視展にあわせて、各施設でも錯視に関する簡単な展示をしている（防府市青少年科学館） ・職員の退職者、教員OBなどがボランティアとして所属。主にモノづくり等中心に活躍しており、展示物のメンテナンスや改造なども行う（防府市青少年科学館） ・市民企画型事業というものを行っている。市民が企画書を提出し、企画を実施する。（広島市こども文化科学館） ・サイエンスフェアにて県内学校や企業と連携。徳島大における学生主体の様々なプロジェクトチームからの協力も多い。（徳島県立あすたむらんど） ・日本きのこセンターやさじアストロパークなどの近隣施設と連携したイベントを実施している。（鳥取市こども科学館） <p>○講演 15:30～</p> <p>講師：福島大学 共生システム理工学類 教授 岡田 努 氏 テーマ：地方の科学館が取り組む地域連携の手法を考える ～ふくしまサイエンスぷらっとフォームの事例から～</p> <p>福島県内の科学館や大学・研究機関の連携の事例をもとに地域連携のに対する考え方や取り組み方をご紹介いただいた。</p> <p>○諸連絡 16:30～</p>
-----------	--

記録写真



WEB会議の様子①



WEB会議の様子②



WEB会議の様子③